人間国宝らによって受け継がれる技法の保存と後継者の育成

香川県漆芸研究所要覧

令和捌年度

香川県漆芸研究所
〒七六〇-〇〇一七 香川県高松市番町一丁目10番39号
TEL:〇八七・八三一・一八一四 FAX:〇八七・八三一・一八〇七
E-mail：shitsugei@pref.kagawa.lg.jp
https://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsugei/

方 針

重要無形文化財保持者（人間国宝）の漆芸技術及び香川県の伝統的漆工芸である蒟醤（きんま）、存清（ぞんせい）、彫漆（ちょうしつ）などの技法を保存するため、その後継者の育成につとめるとともに、漆芸に関する実習、研究を行い技術の向上を図る。

目 標

1. 素地制作から髹漆（きゅうしつ）工程を経て加飾に至る総合された漆芸技術の指導及びデザイン力の養成
2. 模刻、試作その他漆芸に関する幅広い研究と技術の向上
3. 自然や先覚から学ぶ姿勢と、自ら探求し創造していく態度の涵養

玉楮象谷（たまかじぞうこく） 銅像　（高松市立中央公園内）

漆の木がたくさん生えているわけでもなく、用材に適した木が豊富に採れるわけでもなく、漆器づくりに適した湿潤で雨が多い気候でもない。そのような香川県が漆芸の地となりえたのは、江戸末期に登場した玉楮象谷が、中国伝来の存清や彫漆の技法、そして東南アジア伝来といわれる籃胎や蒟醤の技法に着目し、日本的な漆芸技術として打ち立てたからです。これらの技法は、今日では「蒟醤・存清・彫漆」として香川の地で発展し、「香川の三技法」と呼ばれています。

沿革

香川県漆芸研究所は、香川県の伝統工芸である蒟醤、存清、彫漆などの技法を保存し、後継者の育成と技術の向上を目的とする全国最初の施設として、1954（昭和 29）年 11 月設置、翌年、県立高松工芸高校の校舎の一室を借りる形で発足しました。

当初は県内漆器産業従事者の技術向上を目指し、漆器業界の協力のもとに各職場の研究熱心な従業員が入所し、磯井如眞や香川宗石をはじめとする漆工芸作家から直接に漆芸技術の手ほどきを受けました。

1960 年に新設された香川県漆芸研究所

その後、1960（昭和 35）年に高松工芸高校の敷地内に鉄筋コンクリート 2 階建（延面積 477 平方メートル）の独立した新施設が竣工、1967（昭和 42）年に 3 階部分（延面積 304 平方メートル）が増築されるなどして、実習環境が整えられました。漆器業界からの入所者が減少するなかで、1967（昭和 42）年度から高松工芸高校定時制課程塗装科との技能連携教育を開始しました。

その後の社会経済環境の変化を受け、1980（昭和 55）年度入所生から技能連携制度を廃止し 1982（昭和 57）年度から修学年限 3 年、1 学年の定員 10 人とする現行の研究生課程を設置しました。

研究生課程修了後の研究員課程についても、1979（昭和 54）年度から現行の公募制に改めました。

地域文化の一層の振興を図るために、2007（平成 19）年度から文化芸術に関する業務が知事部局の所管となり、2009（平成 21）年 4 月に香川県文化会館に移転し、新たな実習環境と運営体制のもとに、香川県の漆芸振興の拠点施設として再出発をしました。

香川県文化会館

2014（平成 26）年 11 月に創立 60 周年を迎えた香川県漆芸研究所は、香川漆芸の後継者の育成、技術の向上はもとより、漆芸作品の常設展示や県民を対象とした漆芸体験教室の開催などを通じて香川漆芸の情報発信にも努めています。

修了者の状況

1957(昭和 32) 年1月に第 1 回修了者を世に送り出して以来、現在までの修了者は 484 人となり、漆工芸作家や漆工技術者として香川の伝統漆工芸や伝統産業の振興に寄与しています。その活躍は県内に留まらず全国に及んでおり、我が国の漆芸界において極めて重要な役割を果たしています。

修了者の進路	令和 8 年 3 月現在
漆芸作家	180 人
漆器業・漆工技術者	166 人
その他	138 人
計	484 人

2013(平成 25) 年 9 月には、山下義人指導員 (第 15 回修了者) が当研究所修了者として初めて重要無形文化財蒟醤保持者に認定され、2020（令和 2）年 10 月には、大谷早人指導員（第 1 回研究員課程修了者）が重要無形文化財蒟醤保持者に認定されました。

日本伝統工芸展では、過去 10 年間で総裁賞（1 人）、朝日新聞社賞 (1 人)、奨励賞 (1 人)、新人賞 (3 人) を当研究所の修了者が受賞しており、令和 7 年度の第 72 回日本伝統工芸展では、漆芸部門の入選者総数 74 人のうち当研究所の修了者は 19 人となっています。

また、日本伝統漆芸展においては、過去 10 年間で当研究所修了者が文部科学大臣賞 (4 人)、東京都教育委員会賞 (3 人)、朝日新聞社賞 (1 人)、MOA 美術館賞 (3 人)、奨励賞 輪島漆芸美術館賞 (2 人)、奨励賞 熊本県伝統工芸館賞 (2 人)、奨励賞 高松市美術館賞 (6 人)、新人賞（1 人）を受賞しており、令和 7 年度の第 43 回日本伝統漆芸展の入選者総数 75 人のうち当研究所の修了者は 16 人となっています。

講師陣・職員

※主任講師、講師、工芸指導員の作品を漆芸研究所のホームページでご覧いただけます。
https://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsugei/

主任講師

増村紀一郎	重要無形文化財髹漆保持者・紫綬褒章受章・瑞宝中綬章受章 日本工芸会参与・東京藝術大学名誉教授
山下　義人	重要無形文化財蒟醤保持者・紫綬褒章受章・旭日小綬章受章 日本工芸会参与・香川県文化功労者
大谷　早人	重要無形文化財蒟醤保持者・紫綬褒章受章・旭日小綬章受章 日本工芸会参与・香川県文化功労者
山岸　一男	重要無形文化財沈金保持者・紫綬褒章受章・旭日小綬章受章 日本工芸会参与

講師

田口　義明	蒔絵・螺鈿	漆芸作家・紫綬褒章受章

工芸指導員

鈴木　龍子	日本画	日本画家
北岡　省三	彫漆	漆芸作家・香川県指定無形文化財彫漆保持者・香川県文化功労者
山下　哲二	存清	漆芸作家
石原　雅員	彫漆	漆芸作家・香川県指定無形文化財彫漆保持者・香川県文化功労者
辻野　栄一	造形	彫刻家・高松短期大学教授
出淵　光一	デザイン	デザイナー
松原　弘明	彫漆 木彫	漆芸作家
山下　亨人	蒔絵	漆芸作家
漆原早奈恵	修復	漆芸作家・修復師

職員

稲井　眞司	所長	総括
岩西　晃代	所長補佐	総務・事業
髙木美智代	主任	総務・経理
藪内　江美	主任 専門職員	実習指導(蒟醤)
辻　孝史	専門職員	実習指導(存清)
滝本　英恵	会計年度 任用職員	実習指導(髹漆)
古川　京司	参事	運営相談
上島　美香	会計年度 任用職員	実習指導事務

研究生　実習風景

蒟醤(1・2・3年)

木彫(1年)

存清(1・2・3年)

日本画(2年)

彫漆(1・2・3年)

造形(2年)

籃胎蒟醤(2・3年)

デザイン(1年)

研究生の課程

受験料・授業料・入学金

無料（実習で使用する個人工具代金は個人負担）

修学年限・入所資格 （令和９年度）

1. **修学年限：**３年間
2. **入所資格：**漆工芸の高度な技法の修得を希望し、次のいずれかに該当する 35 歳以下の者（令和９年４月１日現在）
   (1) 高等学校以上の学歴を有する者
   (2) 令和９年３月に高等学校を卒業見込みの者
   (3) 中学校を卒業した者で、漆工芸の基礎的技術を修得したと認められる者

定員・在籍者数 （R 8.4.7 現在） （単位：人）

学年	定員	在籍者数
第１学年	10	7
第２学年	10	8
第３学年	10	3
計	30	18

教育課程 （1 週当たり） （単位：単位時間）

教科＼学年	第１学年	第２学年	第３学年	計
漆芸実習	22	24	30	76
日本画	-	3	-	3
デザイン	2	-	-	2
造形	-	3	-	3
木彫	4	-	-	4
籃胎蒟醤	-	4	7	11
髹漆	9	3	-	12
課題研究	3	3	3	9
計	40	40	40	120

・１単位時間を 50 分とし、１日８単位時間・週 40 単位時間を履修する。
・入所後２年間は蒟醤・存清・彫漆の３技法を共通に学習し、第３学年で１技法を専攻する。

日課

日課	時間帯
朝礼	8:30 ～ 8:40
１校時	8:40 ～ 9:30
２校時	9:35 ～ 10:25
３校時	10:30 ～ 11:20
４校時	11:25 ～ 12:15
５校時	13:15 ～ 14:05
６校時	14:10 ～ 15:00
７校時	15:05 ～ 15:55
８校時	16:00 ～ 16:50

オープンキャンパス

令和８年７月 27 日（月）９時～ 16 時

令和８年８月 19 日（水）９時～ 16 時

※上記の日以外にも施設及び研究生の実習状況を見学できますので、お気軽にお問い合わせください。

時間割 （令和８年度）

曜日	校時	第１学年	第２学年	第３学年
月	1	漆芸実習 A		
	2	髹漆（滝本）	漆芸実習 B	
	3			
	4			
	5	漆芸実習 A		
	6			
	7			
	8			
火	1	木彫（松原）	漆芸実習 C	籃胎蒟醤（大谷）
	2		日本画（鈴木）	
	3			
	4			
	5	課題研究		
	6			
	7			
	8	漆芸実習 C		
水	1	漆芸実習 D	籃胎蒟醤（大谷）	漆芸実習 E
	2	髹漆（滝本）		
	3			
	4			
	5	漆芸実習 D		籃胎蒟醤（大谷）
	6			
	7			
	8			
木	1	漆芸実習 F		
	2			
	3	デザイン（出淵）		
	4			
	5	漆芸実習 G	造形（辻野）	漆芸実習 G
	6			
	7			
	8	漆芸実習 F		
金	1	漆芸実習 H		
	2	髹漆（滝本）	漆芸実習 I	漆芸実習 I
	3			
	4			
	5	漆芸実習 I	髹漆（滝本）	
	6			
	7			
	8	漆芸実習 I		

漆芸実習 A：藪内・辻・滝本・山下義・北岡・山下哲・松原
漆芸実習 B：藪内・辻　・山下義・北岡・山下哲・松原
漆芸実習 C：藪内・辻・滝本
漆芸実習 D：藪内・辻・滝本・北岡・山下哲・石原
漆芸実習 E：藪内・辻　・北岡・山下哲・石原
漆芸実習 F：藪内・辻・滝本・山下義・松原
漆芸実習 G：藪内・辻　・山下義・松原
漆芸実習 H：藪内・辻・滝本・石原
漆芸実習 I：藪内・辻・滝本・石原

研究員の課程

受験料・授業料・入学金

無料

修学年限・入所資格

1. **修学年限：**１年間
2. **入所資格：**研究生の課程を修了した者又はそれと同等以上の技能を有する者のうち、漆工芸の高度な技法の研究を希望する者

在籍者数 （R 8.4.7 現在） （単位：人）

人数	4

定例研究・技術講習会風景

山下義人　主任講師

大谷早人　主任講師

増村紀一郎　主任講師

山岸一男　主任講師

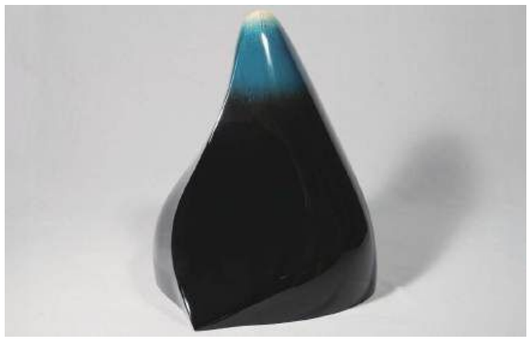
田口義明　講師

研究内容

木	1	**蒟醤・デザイン制作研究** （第１・第３週）　山下義 （第２・第４週）　大谷
	2	
	3	
	4	
	5	**蒔絵・修復の研究** 蒔絵（第１・第３週）　山下亨 修復（第２・第４週）　漆原　継続研究員対象
	6	
	7	
	8	
金	1	**修復の研究** 修復（第２・第４週）　漆原　新規研究員対象
	2	
	3	
	4	

技術講習会	髹漆　主任講師　増村 紀一郎 蒟醤　主任講師　山下 義人 籃胎蒟醤　主任講師　大谷 早人 沈金　主任講師　山岸 一男 蒔絵・螺鈿　講師　田口 義明
研究作品制作	蒟醤・存清・彫漆の各技法による研究作品の制作
県外研修	県外の博物館、美術館、工芸作家等での研修

令和７年度　修了作品



蒟醤オブジェ「朝未き」　木村史乃

存清天冠「華冠」　小峰花香

彫漆写真帖「幾重」　西村和子

乾漆存清小箱「桜花爛漫」　長谷川知星

蒟醤文箱「葆香」　藤田　澪

蒟醤復活祭の卵「捲土重来」　村川　凜

漆研展会場風景

漆研展会場風景

年表

昭和 29 年11月	文化財保護委員会（現・文化庁）の指導と助成を受け設置 香川県漆芸研究所規程（香川県教育委員会規則第 16 号）施行
30 年 1 月	香川県立高松工芸高等学校の校舎の一室 (床面積 66 ㎡) を借用して発足し、開所式挙行 研究生の修業年限 2 年、第1期研究生 10 人入所
5 月	顧問音丸耕堂、重要無形文化財彫漆保持者の認定を受ける。
31 年 4 月	指導員磯井如眞、重要無形文化財蒟醤保持者の認定を受ける。
32 年 3 月	香川県漆芸研究所設置に関する条例 (昭和 32 年香川県条例第 13 号) 施行
5 月	香川県漆芸研究所規程 (香川県教育委員会規則第 7 号) 施行
35 年 3 月	国費の補助を受け、香川県立高松工芸高等学校敷地内に鉄筋コンクリート造 2 階建の研究所を新築 (床面積 477 ㎡)
42 年 2 月	国費の補助を受け、3 階を増築 (床面積 304 ㎡)
4 月	文部省から香川県立高松工芸高等学校定時制課程塗装科との技能連携教育の認可 第 1 期技能連携研究生 9 人入所
44 年 4 月	香川県漆芸研究所設置に関する条例及び香川県漆芸研究所規程の一部を改正 普通研究生及び特別研究生の 2 課程、修業年限各 2 年、1 学年の定員を 15 人とする。
50 年 4 月	香川県教育センター分館の一部を借用し、木彫と造形の実習室とする。
54 年 4 月	研究員の課程を公募し、研究員 5 名が入所
55 年 4 月	普通研究生の課程の募集を停止し、特別研究生の課程を充実
57 年 4 月	香川県漆芸研究所設置に関する条例の一部及び香川県漆芸研究所規程の全部を改正 これにより普通研究生の課程を廃止、特別研究生の課程を研究生の課程とし、修業年限を 3 年、1学年の定員を 10 人とする。
60 年 4 月	指導員磯井正美、重要無形文化財蒟醤保持者の認定を受ける。
11月	創立 30 周年記念誌「香川県漆芸研究所三十年の歩み」を発刊
平成 6 年 6 月	指導員太田儔、重要無形文化財蒟醤保持者の認定を受ける。
7 年 3 月	創立 40 周年記念香川漆工芸「蒟醤伝来展」(ＮＨＫと共催) をＮＨＫ高松放送局ふれあいギャラリーにて開催
10月	創立 40 周年記念特別展「うるしうるわし―さぬきの漆芸」(ＮＨＫ高松放送局と共催、文化庁後援) を西武アート・フォーラム (西武百貨店池袋店) にて開催
19 年 4 月	香川県漆芸研究所設置に関する条例の一部を改正施行 香川県漆芸研究所規則 (香川県教育委員会規則第 27 号) 施行 組織改正により教育委員会から知事部局 (政策部) に移管
21 年 4 月	香川県文化会館に移転・開所。移転開所記念展「香川漆芸の至宝」を開催
25 年 9 月	指導員山下義人、重要無形文化財蒟醤保持者の認定を受ける。
26 年11月	創立 60 周年記念展「受け継がれる技の美」、記念シンポジウムを文化会館にて開催
27 年 3 月	創立 60 周年記念誌「香川県漆芸研究所六十年の歩み」を発刊
28 年 7 月	修了作品の無償貸出し事業開始
30 年11月	「台湾・香川漆芸交流展」を文化会館にて開催
令和 2 年10月	指導員大谷早人、重要無形文化財蒟醤保持者の認定を受ける。
7 年10月	創立 70 周年記念作品展「伝承する技と心」「同窓生漆芸展」を開催

施設・設備・備品

外観

香川県漆芸研究所が入っている香川県文化会館（高松市番町一丁目 10 番 39 号）は、市街地の中心に位置し、最寄駅より徒歩 10 分～ 15 分とアクセスに便利な場所にあります。県庁・市役所・病院・ビジネス街に隣接しており、JR 高松駅（玉藻公園）～瓦町とその周辺の商店街はショッピングにも大変便利です。

会館は 1966 年（昭和 41 年）に開館し、1997 年（平成 9 年）には第 1 回日本建築家協会（JIA）25 年賞を受賞しました。これは竣工後 25 年以上経過した建物を対象に、完成当時と変わらずに維持されている素晴らしい近代建築を次の世代に伝えようと、日本建築家協会が創設したものです。戦後の日本を代表する建築家の大江宏氏によって設計され、鉄筋コンクリート造りの近代建築の様式美に、茶室や和室などの日本建築の伝統美を融合させた建築として有名です。

香川県漆芸研所は 2009 年（平成 21 年）4 月にこの香川県文化会館に移転し、研究生と研究員は新しい環境のもとで漆芸技法の習得に励んでいます。

7	蒟醤実習室 絵画室・図書室
6	彫漆実習室 鬆漆実習室
5	存清実習室 籃胎実習室
4	和室・談話室
3	県民ギャラリー 芸能ホール
2	県民ギャラリー
1	漆芸ホール 作品展示販売コーナー 木工室、事務室
B1	

昭和 41 年に開館した歴史ある建物です。

高松市の中心部に位置し、通いやすい場所にあります。

第 1 回日本建築家協会（JIA）25 年賞のプレート

1 階

1 階は、正面を漆芸ホールとし、香川の誇る漆芸作品の常設展示を無料で観覧していただくほか、若手漆芸家の作品展示販売コーナー、木工室、事務室を設けています。

正面玄関をくぐると、磯井如眞先生の銅像があります。

漆芸ホールには香川の誇る漆芸作品を常設展示しています。（観覧無料）

若手漆芸家の作品を展示販売しています。

事務所前に掲げてある鋳金製の館名板は磯井如眞先生の揮毫によるものです。

1 階奥には木工室を完備しています。

※木工室の備品に関しては 14 ページをご覧ください。

正面玄関には、流政之作「おいでまあせ」が置かれています。

2 階・3 階・4 階　（香川県文化会館）

2 階・3 階は県民ギャラリーの展示スペースとなっており、毎年 3 月に行われる修了展では研究生の作品を展示し、実習の成果を発表します。修了展の会期中は、どなたも無料で観覧いただけます。

2 階展示場から 1 階の漆芸ホールを見下ろせます。十分な広さがあるのでゆったりと観覧いただけます。

3 階芸能ホール

233 席を有するホール。舞台は能舞台をアレンジし全体的に木を用いた和風の趣で、伝統芸能はもとよりクラッシックコンサートなどにも利用されています。

4 階和室・談話室

27 畳、10 畳、4.5 畳の和室には床の間もあり、27 畳和室からは 3 階のホールが見下ろせます。階中央の談話室は、屋内でありながら軒を持ち、茶会では待合いとしても利用されます。

5 階・6 階・7 階

研究生は主に 5 階・6 階・7 階の各技法ごとに別れた実習室を、それぞれの選択したコースに合わせて利用し作品を完成させます。

研究員は、5 階実習室にて毎週木曜日及び第 2・第 4 金曜日に講師を迎え授業を受けるほか、定例研究日以外にも作品制作を行っています。
（※希望者は実習を見学することもできます。）

7 階	蒟醤実習室・絵画室・図書室
6 階	彫漆実習室・髹漆実習室
5 階	存清実習室・籃胎実習室

実習室

次の世代へと伝統の技術を継承します。

研究生・研究員の真摯な態度に講師の指導にも熱が入ります。

3 名の常勤指導員をはじめ総勢約 20 名の講師が、研究生・研究員を指導します。

現場の第一線で活躍する先輩からきめ細やかな指導を受けられる体制は本研究所の大きな特色の 1 つです。3 年間で信頼関係が結ばれ、人生の先輩として修了後も先生方を訪ねてきているようです。

各階には実習室の他に塗部屋、上塗室があり、それぞれの部屋に漆風呂を設置しています。また、エアコンと加湿器で温度と湿度を一定に保つようコントロールしており、これらの設備は各階に完備しています。

中塗り用の塗部屋
部屋は別に仕切られており、温度と湿度をコントロールしています。

電動練り機
色漆の塗り重ねの多い技法に必要な量の色漆を練る際に使用します。本機の使用により、顔料の粒子が揃い発色も良くなります。

上塗り用の塗部屋
部屋は別に仕切られており、1 人用です。温度と湿度をコントロールしています。

真空ろくろ
真空ポンプで材料を吸着させて研ぎの作業が行えます。

作業机と椅子
地元の製作所に依頼した完全オーダーメイドです。作業しやすい十分なスペースで、椅子に座って長時間の作業にも疲れにくいように設計されています。また 2 段の引出が付属している道具入れはキャスター付きで楽に移動できます。

電気炉
乾漆の石膏型を乾燥させる際に使用します。

水研ぎグラインダー
水を供給させて冷却しながら刃物を研ぐ際に使用します。

デスクトップライト
スムーズな動きで作業中もこまめに光の調節ができ、笠は角度を一定に保ちながら位置を自由自在に動かせます。

回転装置
漆を厚目に塗った場合は、垂れてくるのを防ぐため、回転させながら乾かします。
風呂の中に回転装置を設置し、つく棒を取り付けて使用します。

炭研ぎ用の桶
砥石のサイズに合わせた長さ、使いやすい幅と十分な深さのあるものを地元の職人さんに依頼したオーダーメイドです。

7階にある絵画室は、曇りの日や雨の日など雲で太陽光が散乱される日でも、室内を一定の明るさに保つように蛍光灯を配置しています。

図書室には漆の歴史や図案の参考になる本や図録等をそろえており、研究生は自由に利用することができます。

木工室

香川県漆芸研究所には木工室を完備しており、素地づくりのために、切る・削る・磨く、それぞれの用途に合った専門性の高い機械を約 20 台ほど設置しています。

木工ロクロ
丸盆、茶托、椀、茶道具、菓子器等の素地を作成する際に使用します。回転する木材に刃物をあてて削ります。

真空吸着式ロクロ
木工ロクロと同様に丸盆など丸い素地を作る時に使用します。真空ポンプを使い大きな木などを固定することが出来ます。

ガス台・ステンレス窯
竹を熱湯に入れて煮込み、油分を抜く「油抜き」作業用のガス台と窯です。

万能機
手押カンナ盤、自動カンナ盤、丸ノコ盤がひとつになったものです。1 台の機械で各種作業が行えます。

丸ノコ昇降盤
テーブル中央から丸ノコが突き出すシンプルな構造の機械です。定規に加工材を沿わせてカットします。

ベルトグラインダー
ベルトの平面や曲面を利用して様々な材料を削ります。手作業に比べ短時間で削ることができます。

移動式集塵機(左)
各種機械に直接つなぎ、おがくずや木端を吸い込む装置です。

帯ノコ(右)
回転しているベルト状のノコ刃で、加工材を切断する機械です。糸ノコ的な使い方も可能で、応用範囲の広い機械です。

スライド丸ノコ盤
丸ノコの角度を 45 度まで変更可能な、傾斜装置が付いています。

卓上ボール盤(左)
小型なので位置精度も形状精度も良好な穴加工を行うことができます。

ディスクグラインダー(右)
軸径が細く握りやすいので、長時間の作業も可能です。

主な収蔵作品

香川県漆芸研究所には、人間国宝の磯井如眞、音丸耕堂、磯井正美、太田儔、山下義人、大谷早人他の貴重な作品が収蔵されています。

蒟醤料紙硯箱　藤川蘭斎 作（江戸末期～明治）撮影：高橋章

蒟醤喰籠遊禽之図　磯井如真 作（昭和 36 年）撮影：高橋章

彫漆色紙筥昆虫譜　音丸耕堂 作（昭和 13 年）撮影：高橋章

花蝶紋存清手箱　香川宗石 作（昭和 45 年）撮影：高橋章

蒟醤気球の旅合子　磯井正美 作（平成 24 年）

籃胎蒟醤八角食籠草花文　太田儔 作（昭和 55 年）

蒟醤蒔絵盆「落椿」　山下義人 作（平成元年）

籃胎蒟醤菓子器「川瀬」　大谷早人 作（平成 21 年）

香川漆芸の認知度アップのための取組み

修了作品の展示と無償貸出し

研究所の活動を多くの方々に知ってもらうため、研究生の修了作品から毎年数十点を選び、1 階の漆芸ホールで展示しています。展示された作品は、展覧会終了後に、香川にゆかりのある県内外の企業や団体に無償で貸し出されていて、応接室や窓口等に飾られ、訪れた人々には香川漆芸の魅力をじかに感じていただいています。

ハイファッションブランドとのコラボレーション

高級感あふれる香川漆芸の魅力を広くアピールするため、婦人向け生活雑誌の老舗『家庭画報』とタイアップし、有名ファッションブランド等とコラボした商品を制作し、同誌面で特集記事を掲載する取組みを行なっています。

香川漆芸 × セルジオロッシ（家庭画報 2017 年 11 月号）

香川漆芸 × ブチェラッティ（家庭画報 2022 年 4 月号）

香川漆芸 × フランクミュラー（家庭画報 2023 年 4 月号）

香川漆芸 × アンリ・ジャック（家庭画報 2024 年 4 月号）

香川漆芸 × フリッツ・ハンセン（家庭画報 2025 年 4 月号）

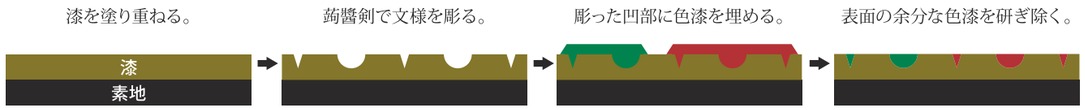
香川漆芸 × エス・テー・デュポン（家庭画報 2026 年 5 月号）

香川の三技法

香川の漆芸は、玉楮象谷によって創始されました。彫刻刀や剣による彫りと色漆による加飾が香川漆芸の特徴であり、蒟醤、存清、彫漆を「香川の三技法」といいます。また、竹ひごを籠状に編んで素地とする籃胎にも香川独自の技法があります。

蒟醤（きんま）

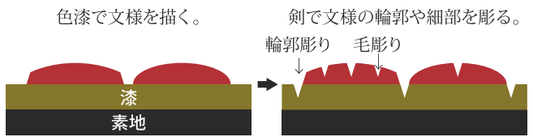
竹や木などで作った素地の上に漆を十数回塗り重ね、蒟醤剣（きんまけん）で文様を彫ります。そして、彫り込みを入れた溝に色漆を埋め、表面を平らに研ぐことによって、意図する文様を表現する技法です。中国の南方（四川・雲南地方）からタイやミャンマーに伝わり、さらに、室町時代末期ごろ、日本に伝わりました。
蒟醤は、彫り・色埋め・研ぎの工程から生み出される細密な表現が特徴的です。近年では、従来の線彫りに加えて「点彫り」や「往復彫り」「布目彫り」などの技法も生まれ、より多彩な表現が可能となりました。



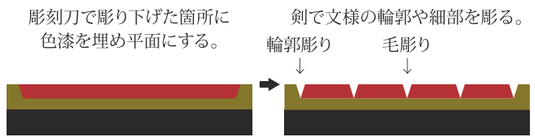
存清（ぞんせい）

漆を塗り重ねた器物の表面に色漆で文様を描き、剣で輪郭や細部に線彫りを施し、彫り口に金粉や金箔を埋めて文様を引き立てます。これを描漆法（びょうしつほう）といい、玉楮象谷はこの技法で存清の作品を制作しています。存清にはもう一つの技法があり、漆を塗り重ねた器物の表面に彫刻刀で文様を彫り、その彫り口に色漆を埋め研ぎ出した後、剣で彫り引き立てます。これを填漆法（てんしつほう）といいます。
室町時代に中国から日本に伝わり「存星」とも書きますが、香川県では玉楮象谷が用いた「存清」の文字を用いています。

鎗金細鉤描漆法（そうきんさいこうびょうしつほう）

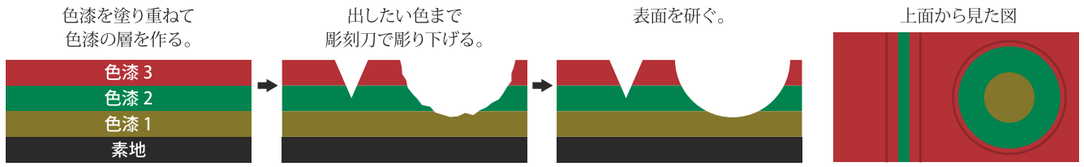


鎗金細鉤填漆法（そうきんさいこうてんしつほう）



彫漆（ちょうしつ）

彫漆は、各種の色漆を数十回以上塗り重ねて色漆の層（100 回で厚さ約 3mm）を作り、その層を彫り下げることによって文様を浮き彫りにする技法です。彫りそのものによる立体感と彫りの深さによって変わる色の対照が、独特の美を生み出します。室町時代に中国から日本に伝わり、彫りの技術に優れている玉楮象谷は、独自の彫漆技法を考案して作品を制作しました。
朱漆だけを塗り重ねたものを堆朱（ついしゅ）、黒漆だけを塗り重ねたものを堆黒（ついこく）といいますが、いずれも彫漆の一種です。現在では、顔料の発達により、さまざまな色漆が使われています。



令和 7 年度の記録

漆研展・夏
2025.5.23 ～ 7.27

オープンキャンパス
2025.7.28・8.20

磯井正美展
2025.8.1 ～ 8.31

秋の彩り
2025.9.5 ～ 10.15

研究生募集
2025.10.17 ～ 11.13

創立 70 周年記念作品展
2025.10.25 ～ 11.24

乾漆展
2025.11.29 ～ 2026.1.18

変幻自在変り塗展
2026.1.23 ～ 3.1

漆研展
2026.3.7 ～ 3.15

三技法展
2026.3.7 ～ 5.17

※ 表・裏表紙にそれぞれ 1 箇所「香川県漆芸研究所」と読める箇所があります。分かりますか？

香川県漆芸研究所

〒760-0017 香川県高松市番町一丁目 10 番 39 号
TEL：087-831-1814　FAX：087-831-1807
E-mail：shitsugei@pref.kagawa.lg.jp
https://www.pref.kagawa.lg.jp/sitsugei/

交通案内

ＪＲ高松駅から南へ 1.2ｋｍ	徒歩約 20 分
ことでん瓦町駅から西へ 1ｋｍ	徒歩約 15 分
ことでんバス「高松市役所」下車	徒歩 4 分
ことでんバス「県庁・日赤前」下車	徒歩 4 分